

## 「現在のベトナム概況」

今回は初回レポートとして、ベトナムの概況をお伝えします。

基本データ（2022年）は以下のようになっております。

① 人口	9,946万人
今年1億人突破予定。世界で15番目に人口の多い国。	
② 平均年齢	33歳
都市部への人口流入と共に核家族化が進んでおり、少子高齢化に向かっている。2036年には7人に1人が65歳以上となる。	
③ 平均年収	46万円
地方を含めた全国平均年収。業界ではIT、不動産、コンサル、金融などは年収200万円を超えるローカルスタッフが存在する。	
④ 法定最低賃金	2万8千円（月額）
外資系企業の最低賃金は都市部から地方まで4つにランク分けされており、上記金額は大都市およびその周辺都市の価格となる。	

首都のあるハノイは政治の中心、ホーチミンは経済の中心都市、この2大都市への人口流入は今後も続くと予想されています。（両都市とも1000万人都市へ近づいています）

GDP成長率は前年同期比3.72%で、2011年以降の同時期と比較すると、コロナ禍にあった2020年の1.74%に次ぐ低い成長率でした。

製造業では、日本からベトナムへの調達先探しが盛んです。以前から、多くの企業が中国から部品調達を行っており、人件費の高騰やチャイナリスク回避という側面から、コスト削減が期待できそうな東南アジアへの移管を考え、その中でもベトナムは人気の国となっています。

実際にはベトナムで製造するものは思ったよりコストメリットが少ないものが多く、調達を諦める企業もありました。大きな理由の一つとして原材料を輸入に頼っているという体質が上げられます。

しかし最近では、中国に依存した調達はリスクが高いという危機感の方が多くなってきており、ベトナムでの調達に移行しつつあります。

- ・ベトナム北部はメーカーが多くの進出しており、南部は中小製造業が多い。
- ・携帯、家電、プリンター、もちろんバイクの部品加工業は非常に多い。

ローカル製造業が外資系メーカーに直接取引するケースも増えてきており、同様の部品を加工する外資系企業は価格競争に巻き込まれると厳しい状況になります。